

ICT機器による安全対策で ドライバーの運転技術と 安全意識が大幅に向上!

新雪運輸株式会社 / 運送業 / 川口市

代表取締役 / 瀧澤 裕司 氏

激化する運送業界の競争の中で 求められるのは常に一歩進んだ安全対策

新雪運輸は1963年創業、食品物流一筋50年の実績を持つ運送会社だ。現在では1都3県に7つの営業所を設け、約200台のトラックを有している。ドライバー教育にも力を入れており、挨拶や身だしなみはもちろん、充実した教育内容で取引先からの評価も高い。

設立以来、安全運転の徹底に取り組んできた会社だが、それでも事故を100%防ぐのは難しい。物流の発展に伴い業務量は増加、こちらに非のないもらい事故にあう可能性もあり、昔に比べ、ドライバーにはより高い安全意識が求められている。またドライバーの健康管理も重要だ。過労や睡眠不足により、事故につながるケースが増加していると指摘されているからだ。

安全第一を理念に掲げる同社は、ドライバーの安全意識の向上と労務管理の充実を図るため、現代表の就任からICTによる安全強化に乗り出した。



即日配達など、配送スピードも激化している。

会社概要

川口市芝高木1-7-14
<http://www.shinsetsu.co.jp/>
 【設立】1970年 【従業員数】400人
 【事業内容】一般貨物自動車運送事業 / 貨物運送取扱事業 / サードパーティロジスティクス(3PL)事業
 低温食品物流を中心に、物流センターの運営・管理並びにロジスティクス全般を受託する3PL事業を推進している。



導入した ICT システム

◎セーフティーレコーダー

運転中の映像を録画するドライブレコーダーと、運行データを記録するデジタルタコグラフが一体になった機器。「ハンドル」「ブレーキ」「右左折」など5項目を点数表示。安全運転だけでなくエコドライブにも役立っている。



◎IT点呼

他の営業所とネットを通して点呼が行えるシステム。運行管理者の負担軽減や業務効率化にもつながる。

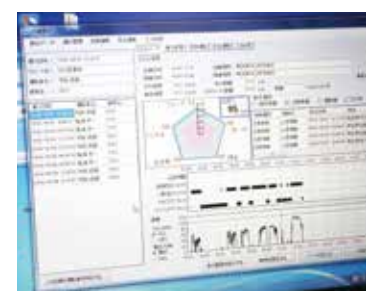


安全運転の全国大会で上位入賞! ドライバーの意識向上にもICTが大活躍

2008年、全車にドライブレコーダーとデジタルタコグラフが一体になった「セーフティーレコーダー(SR)」を設置。ドライバーの運転データを記録・分析し、安全運転のレベルが高い営業所を表彰している。これにより運転技術はもちろんドライバーの安全に対する意識も向上。メーカー主催の全国大会でも上位入賞を果たした。今後はGPSで運行状況を確認できる機能なども活用したいそうだ。

また、出発前と帰社後に行う健康状態および呼吸中のアルコール濃度チェックは、管理者が不在でもネットで実施できるIT点呼を導入。業務効率化を推進するとともに、点呼時に運転時間を記録することで、超過勤務の防止にもつなげている。

これら法令以上の安全対策により、同社ドライバーの多くが安全に対する高い効果を実感しているという。



日々の運転を数値で見える化。自分自身のスキルを客観的に確認できる。

スタッフ VOICE

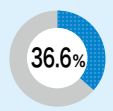


当社は法令以上の装備を導入するなど、安全対策には特に力を入れています。デジタルによる労務管理など社員の健康を守る装備も開発中です。



- ✓ 事故からドライバーを守る装備の充実
- ✓ 安全に対するモチベーション向上
- ✓ 勤怠管理と安全管理の連携

ドライバーの拘束時間が「1日13時間以上」と回答した企業は36.6%



※国土交通省「平成27年度トラック運送状況の実態調査」より
※上記データは1運行の拘束時間が13時間を超える回答割合の合計値で再編加工しています



- セーフティーレコーダーなど安全装備を導入
- 運転状況の可視化で安全意識が向上
- IT点呼で超過勤務を防止

全国SRグランプリの成績実績
 大型部門 全国2位
 中型部門 全国3位



なるほど!よくわかる
専門用語



【ドライブレコーダー】
 走行中の映像や音声を記録する装置。衝突などの危険時にプザーで知らせるものもある。



【デジタルタコ】
 車両の速度、走行時間、走行距離などの情報を自動的に記録する運行記録計の一種。



なるほど!よくわかる
専門家からのアドバイス

ドライブがより安全・割安になるETC2.0に注目!

ETC2.0は今後普及する次世代ETC。対応機器を導入すれば、有料道路の料金決済だけでなく、障害物など危険に対する注意喚起や、事故・渋滞情報を自動で知らせるなどして、最適かつ割安なルートで運転できます。